

# ダイヤモンド インドネシアに新工場

## 点火コイル 年産150万台体制

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス(HD)は、インドネシアのブカシ県に自動車用点火コイルの新工場を稼働した。投資額は約5億円で、生産能力は年間150万台。生産設備をタイの工場から移管した。このほど量産品の納入を始めた。現地の日系自動車メーカー向けに加えて、オセアニア地域向け補修品の販売も増やし、生産能力の増強も視野に入れる。

ダイヤモンドエレクトリックは生産をタイに集約したトリックHDは2011年以降縮小傾向5年にインドネシアの工場建設計画を撤回し、東南アジア向けの



生産を拡大している。顧客の現地調達のため、生産体制を構築する。

新工場は既存の工場建屋を賃借する。タイにある2工場のうち、▲タイから生産設備を移管して稼働したインドネシア新工場

チャチエンサオ県にある工場から生産設備を移設した。平屋建てで、延べ床面積が約2000平方メートル。工場内はまだ空きがあり、今後、需要に応じて生産を拡大する方針だ。

ダイヤモンドエレクトリックHDは子会社のダイヤモンド電機がタイの2工場で点火コイルなどを生産するが、いずれもフル稼働の状態で、インドネシアの状況。インドネシア向けはタイから新工場に生産を移していく。

1月に買収した田淵電機の生産拠点も加えて、今後はグローバルの生産体制を再構築する考え。

田淵電機のタイ工場は太陽光発電用パワーコンディショナーの生産を日本に移し、電子機器などの生産に活用する方向だ。